

新たな高校づくりに向けた意見交換会でのこれまでの意見（小豆地域）

1 日程・会場

会議の名称	新たな高校づくりに向けた意見交換会（第1回・第2回）
日時	第1回：6月7日（月）15：00～17：00 第2回：7月14日（水）15：00～17：00
会場	小豆総合事務所（土庄町）
参加者	行政・PTA・小中学校・高校 11人 一般傍聴者 0人

2 主な意見

大学進学にしっかり対応した普通科が望ましいという意見が大半であった。その他、高校入試の際の選択肢の複数化、就職対応、資格取得、定時制の存続、島ならではの教育などの意見が出された。

意見（抜粋）

○第1回意見交換会

<統合校の特色>

- ・進学にも就職にも幅広く対応できる高校が望ましい。
- ・これまで両校が築いてきた大学の指定校枠や推薦枠を統合校に引き継いでほしい。
- ・進学対応をしっかり行い、良い大学へ進める高校にしてほしい。
- ・島内の地場産業関係者からの要望として、「商業などの専門的な力よりも基礎学力をしっかりと身につけさせてほしい。」という声がある。
- ・小豆島に合った島らしい高校をつくり、島に愛着をもてるような、誇りある高校であってほしい。

<学科やコース等の構成>

- ・統合校は、普通科をベースとする高校が望ましい。
- ・入学後の進路変更に対応しやすいという面で、総合学科よりも普通科の方がよい。
- ・総合学科のことをもっと詳しく知りたい。
- ・ぜひ定時制を存続してもらいたい。小豆島では、地理的・経済的に私立高校に行けない子も多く、最後の受け皿として定時制は必要である。

<入試の方法>

- ・高校入試の際に複数選択できる方が、生徒の意欲が向上し、能力を伸ばすことができる。

<その他>

- ・高松の高校に行く生徒を島内に食い止めたい。
- ・中学校、高校の教員の意見を聞く機会を設けてほしい。

○第2回意見交換会

<地域ならではの特色をもった教育>

- ・高齢化が進んでいることを思えば、看護師や介護福祉士の養成が考えられる。他の資格でもよいから、資格取得に強い高校なら、島外から入学希望者が増えるのではないか。
- ・高校生にとっては、社会で学ぶことが大きなプラスになるので、1年次にインターンシップや体験活動など、将来の進路選択について考えられる科目を設けてはどうか。
- ・子どもたちには小豆島の歴史や魅力を知ってほしい。例えば、総合的な学習の時間の中で、将来の進路だけでなく、小豆島を知る「島学」のような学習も考えられる。
- ・農村歌舞伎やオーリーブについて学習し、その成果を校外に向けて発表する機会を設ければ、地域連携により、礼儀やビジネスマナーの効果的な指導、キャリア教育、社会性の涵養などが期待できる。

<学科やコース等の構成>

- ・普通科総合選択制のメリットは、多様な生徒の進路希望に対応できることであり、デメリットは、時間割が複雑で、生徒の把握やクラス編成が困難なことである。
- ・4つの素案の中で「総合学科のみの素案Dは、小豆地域の統合校にはふさわしくない。」という参加者の意見が多いと思う。
- ・簿記など高校で取得できる資格のメニューを用意してほしい。
- ・大学進学を前面に打ち出した高校づくりをすべきである。そのためにも、普通科をベースにした高校とし、あとは選択科目を用意する形がよいと思う。
- ・島で唯一の高校は、多様な生徒の進路希望に対応できる方が生徒にとって望ましい。
- ・経済的に厳しい家庭にとっては、進学にも就職にも対応できる高校が望ましい。
- ・現在の就職難や離職率の高さを考えると、高校では、専門的な知識や技術を習得することよりも職業観や勤労観を養うことが大切だと思う。

<入試の方法>

- ・島の中学生は高校進学について危機感が薄い。その中で島外の高校へ進む生徒の高い学習意欲が周囲に好影響を及ぼしている面がある。そのためにも、統合校では、入試段階で特進コースと普通コースを分けて募集して、特進コースを目指せるシステムが必要である。その結果的、学習意欲の高い生徒を島内の高校で受け止めることができれば、全体に良い影響を与えてくれると期待する。